

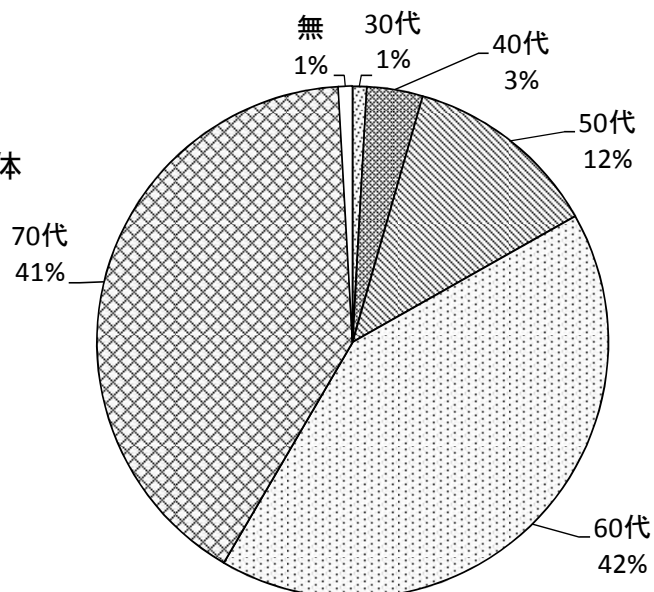
わた史ノート普及・啓発事業に関するアンケート結果

●調査対象	小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会メンバー：１８９名
●実施時期	平成２８年１０月・１１月
●調査方法	わた史ノートの普及啓発講座の後、アンケート調査を実施
●回収状況	113人（回収率 59.8%）

基本情報

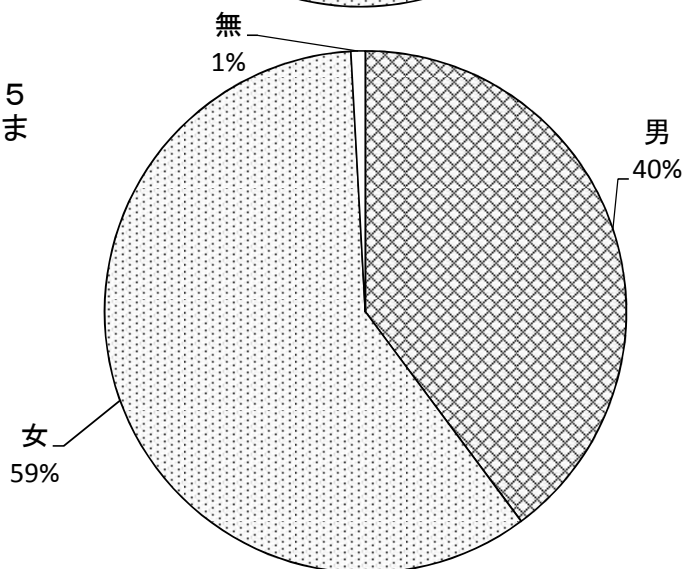
①年齢

年齢については、60代、70代の方が全体の約8割を占めています。



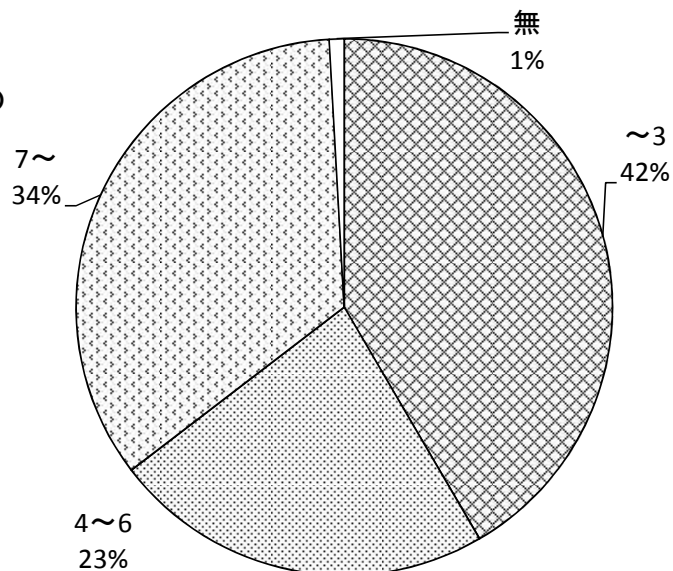
②性別

男女別については、男性が40%、女性が59%となっており、女性の方が多くなっています。



③民生委員経験年数

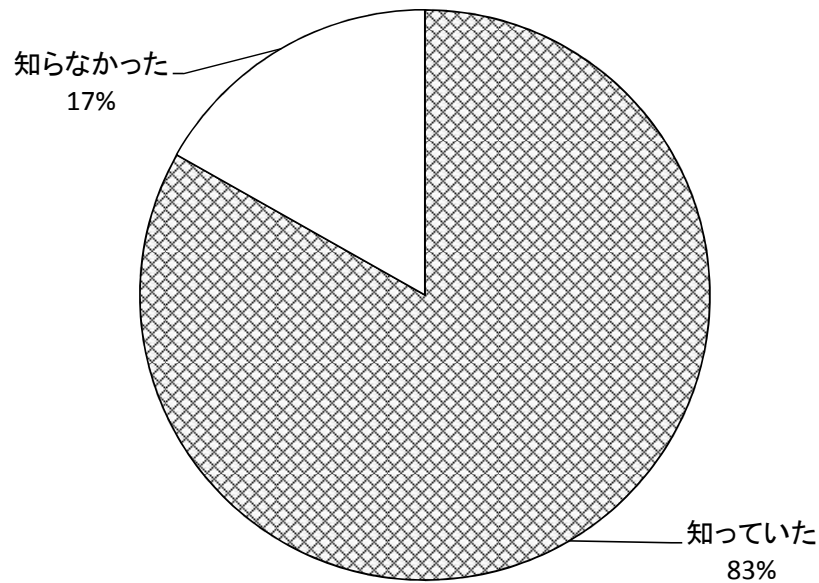
経験年数については、1期目（3年未満）の方が一番多く、次いで、3期目以上（7年以上）の方が多くなっています。



※民生委員・児童委員の任期：1期3年

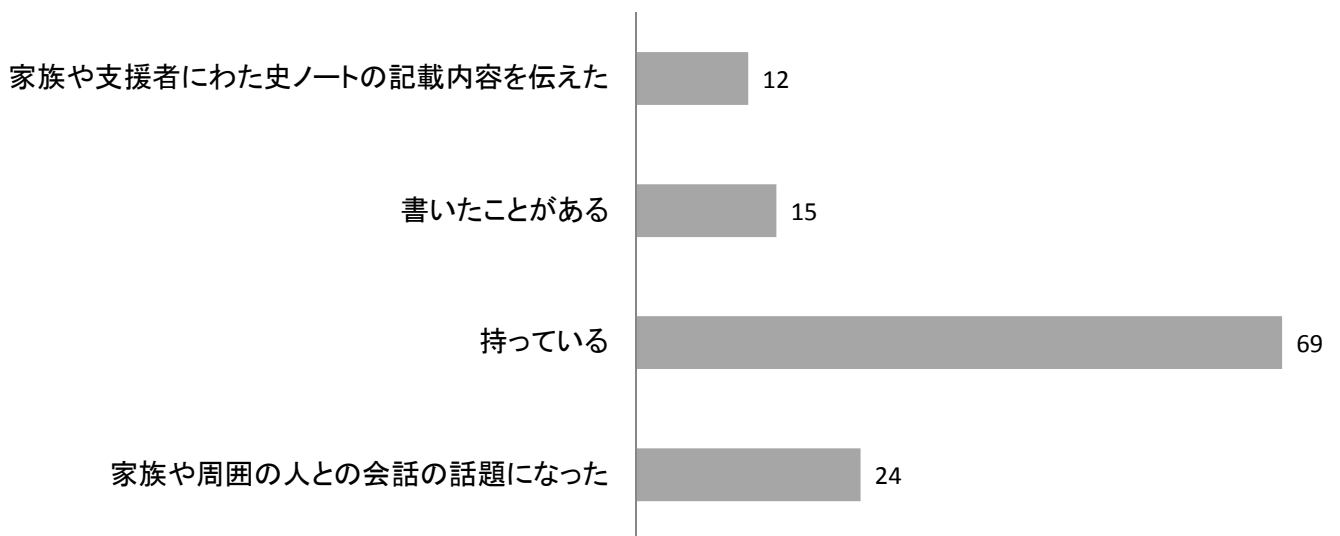
問 1. 「わた史ノート」を小牧市が作成したことを知っていましたか？

「わた史ノート」を知っていたと答えた方は、全体の 83%と高い割合となっています。



知っていたと回答された方へ、利用状況

「わた史ノート」を知っていたと答えた方に、その利用状況を尋ねたところ、『持っている』が69人と一番高くなっており、次いで、『家族や周囲の人との会話の話題になった』が24人となっています。

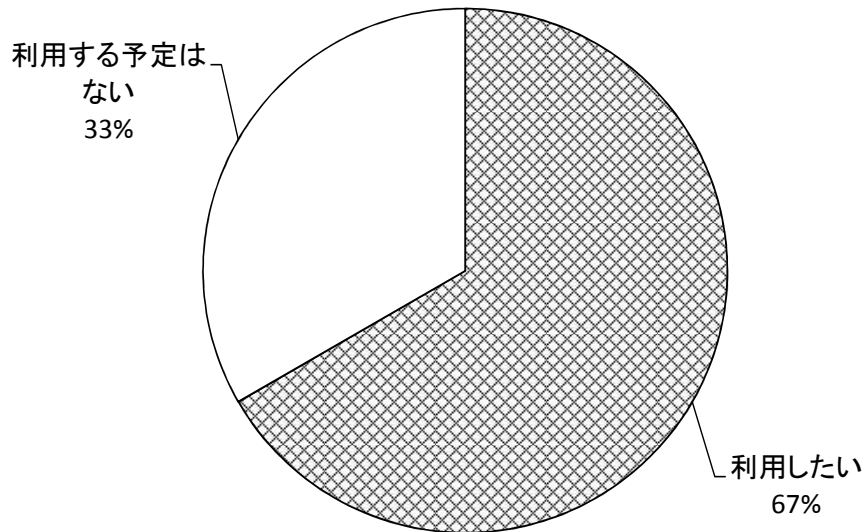


(複数回答可)

N=113

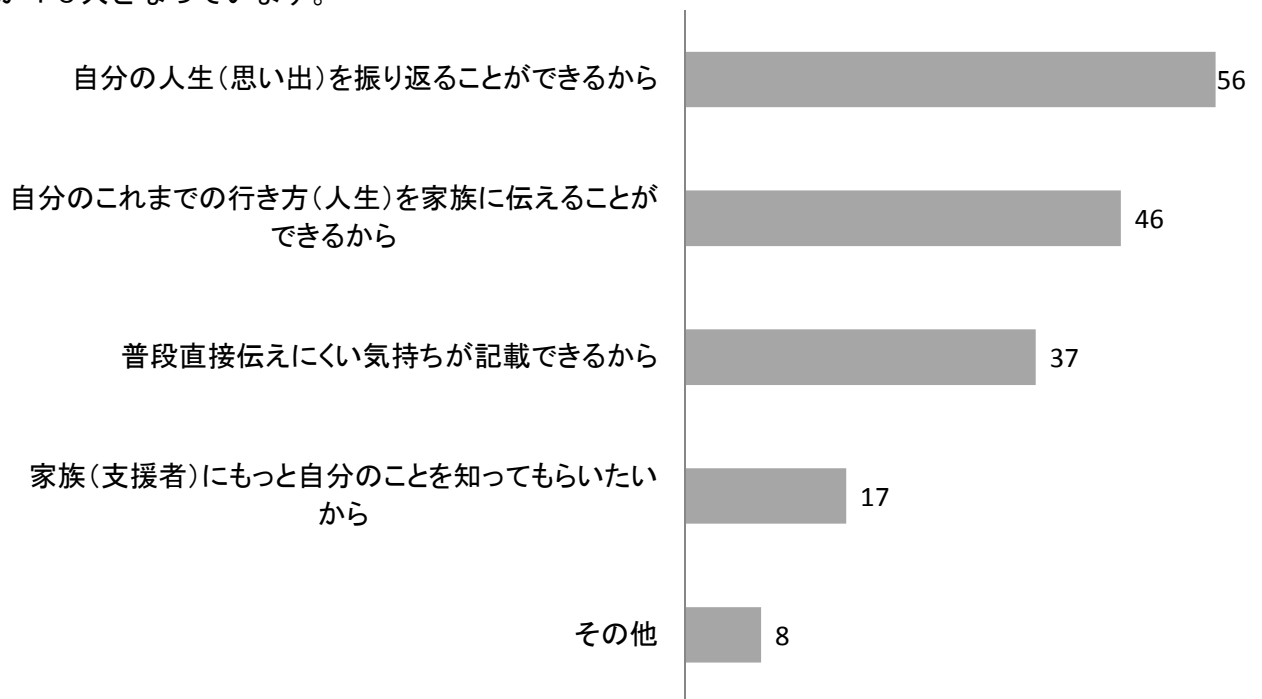
問2. 今後「わた史ノート」を利用してみたいと思いますか。

今後の利用意向については、67%の方が利用したいと思っています。



利用したいと回答された方へ、その理由をお尋ねします。

「わた史ノート」の利用の目的について尋ねたところ、「自分の人生（思い出）を振り返ることができる」が56人と最も高く、次いで、「自分のこれまでの行き方（人生）を家族に伝えることができる」が46人となっています。



（複数回答可）

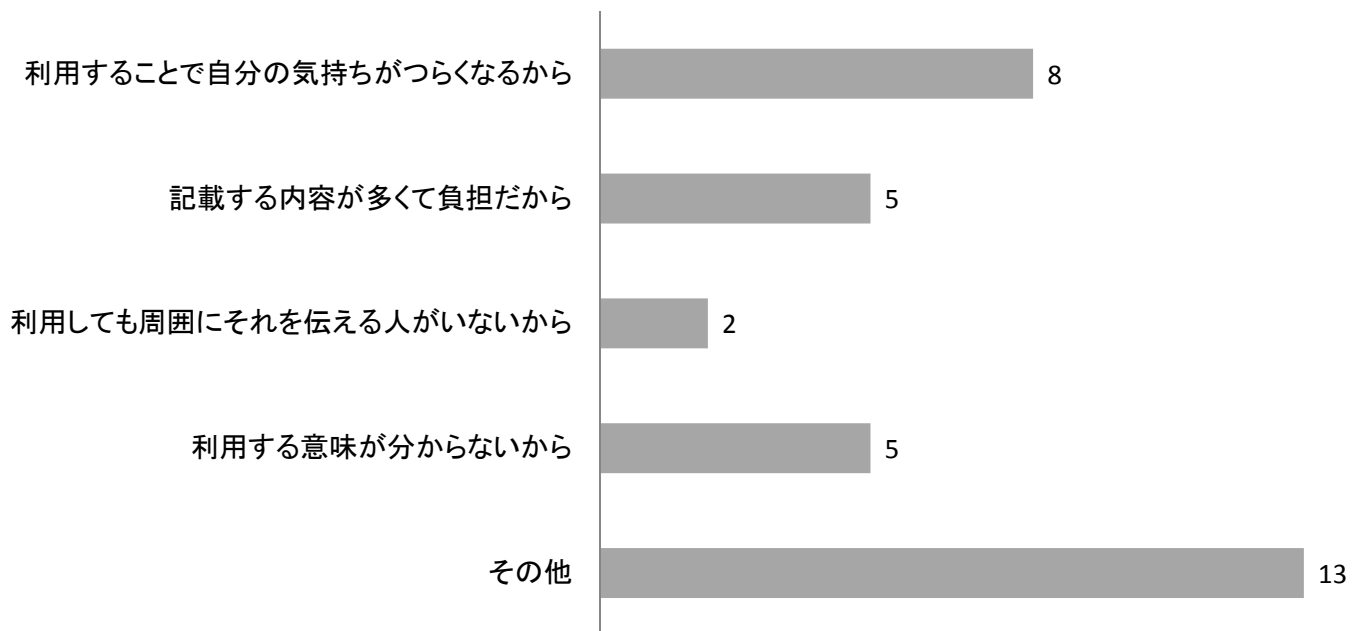
N=111

その他の意見

- ・ 本当の事（つらい事、嫌な事）は書けない
- ・ 記載内容が難し過ぎるのもっと分かり易くして欲しい
- ・ 記入することで、過去の思い出と自分の整理と今後へのスタートの一步となる
- ・ いつ・どこで・どうなるか分からないし、自分の考えがしっかりしてるうちに、伝えておけるから
- ・ エンディングノートとも含めて表現し、家族へ分かるようにしたい
- ・ 自分のこれからを考えることができるから

利用する予定がないと回答された方へ、その理由をお尋ねします

「わた史ノート」を利用する予定がないと回答した理由については、「利用することで自分の気持ちがつらくなる」が8人と一番多くなっています。

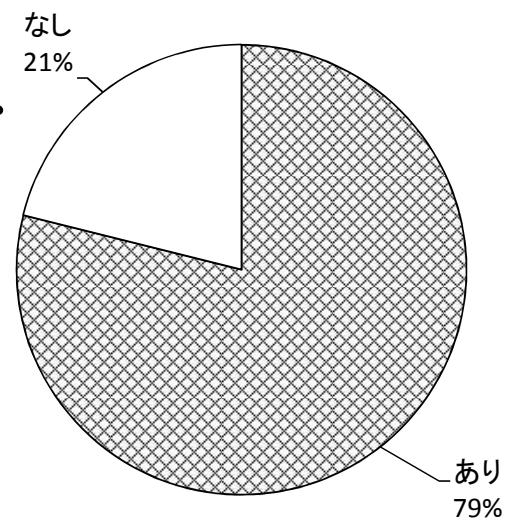


(複数回答可) N=111

民生委員としての活動についてお尋ねします

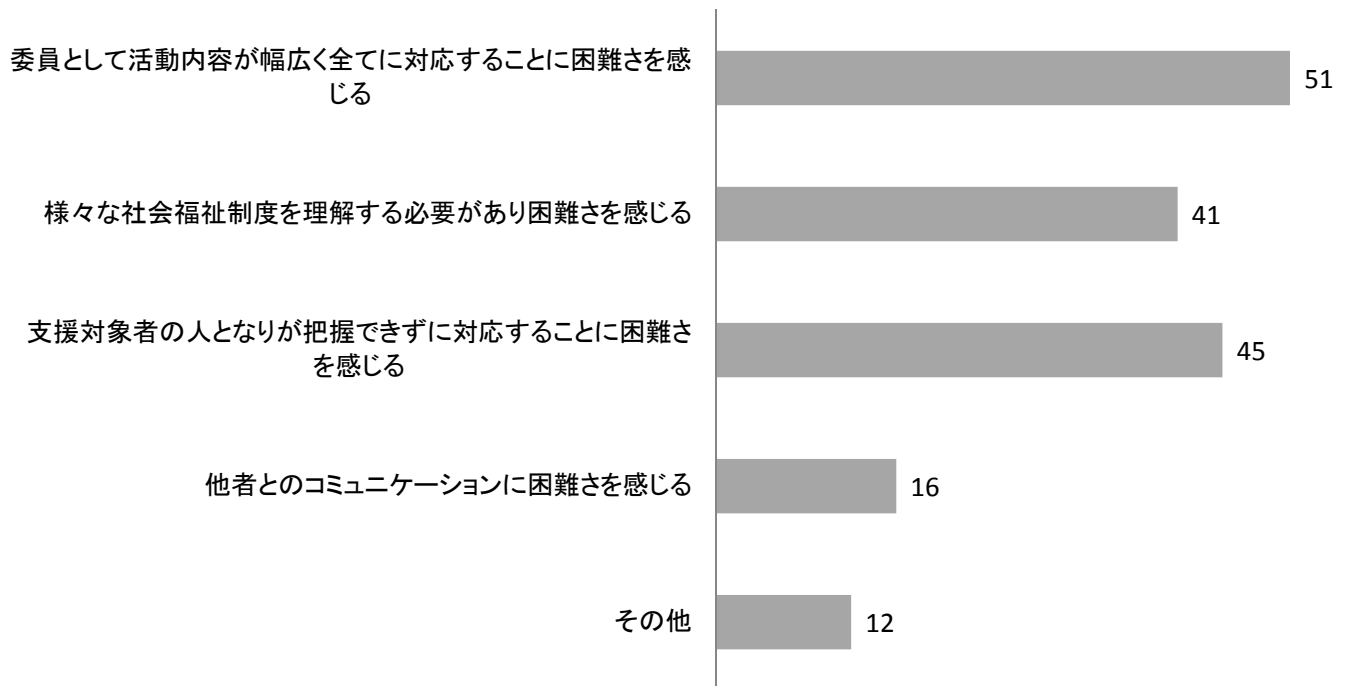
問3. 民生委員の活動において困難さを感じたことはありますか？

活動の困難さを感じたことがある方は、全体の79%と高くなっています。



ありと回答された方へ、どのような困難さを感じるかお尋ねします

困難さを感じる内容としては、活動内容の幅が広いことが51人、支援対象者の人となりの把握が45人、制度の理解が41人と順に高くなっています。

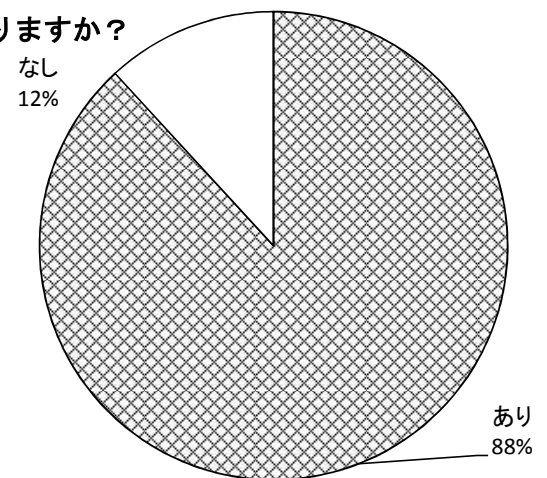


(複数回答可)

N=109

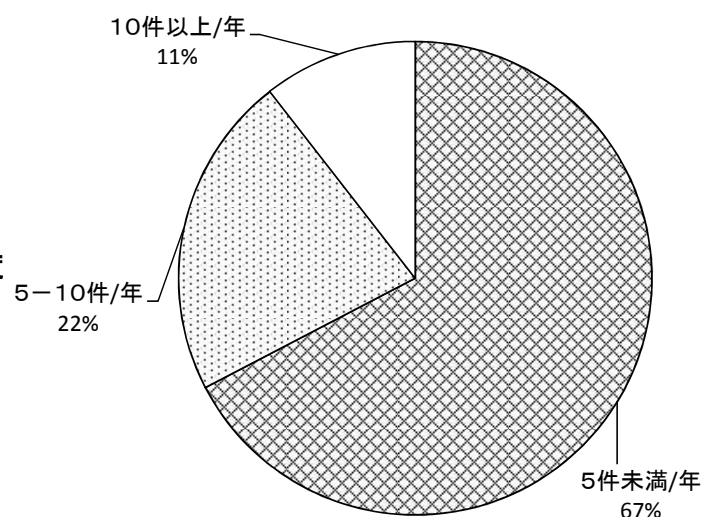
問4. 民生委員として担当地区住民から相談を受けたことがありますか？

相談を受けたことがある委員は、全体の88%とほとんどの委員が受けたことがある状況です。



ありと回答された方へ、その件数についてお尋ねします。

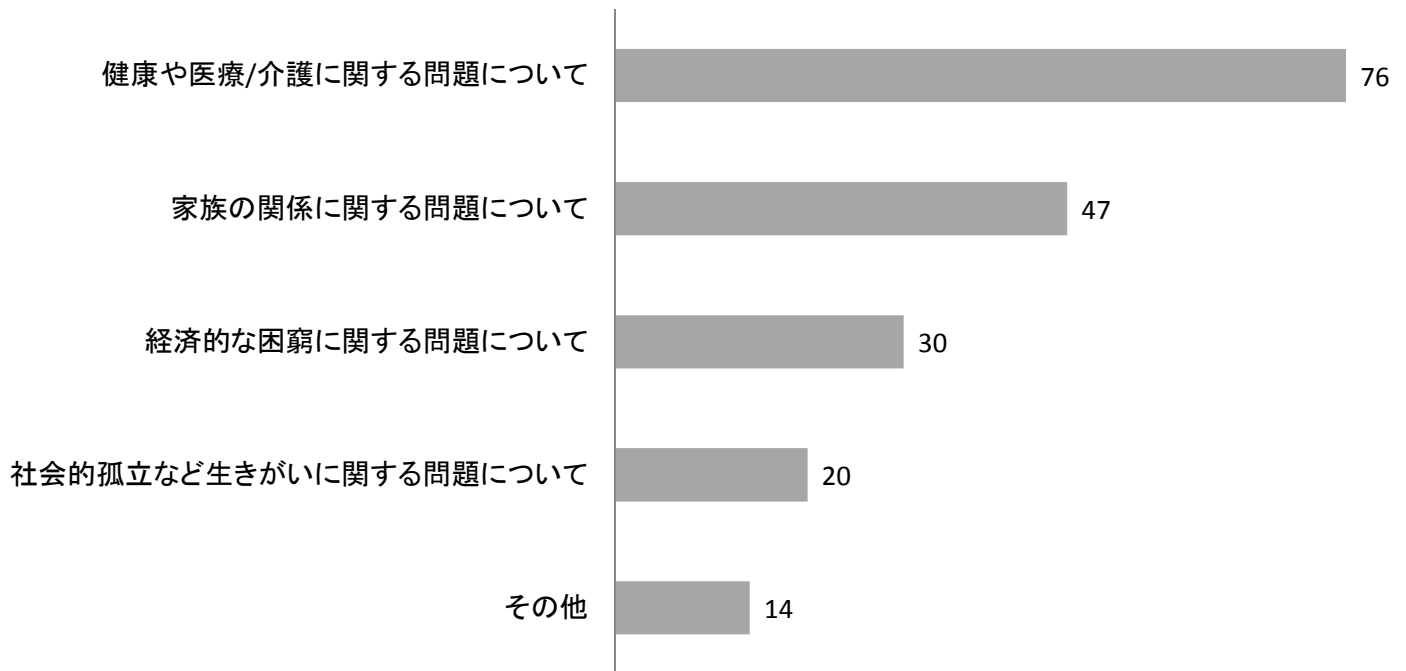
相談件数については、年に5件未満が最も多くなっていますが、実態としては、もっと多い状況となっていると推測されます。



※民生委員の活動記録では平均年間130件程度

問5. どのような相談を受けたことがありますか？

相談の内容については、健康や医療/介護に関する問題が76件と最も高く、次いで、家族の関係に関する問題が47件と多くなっています。

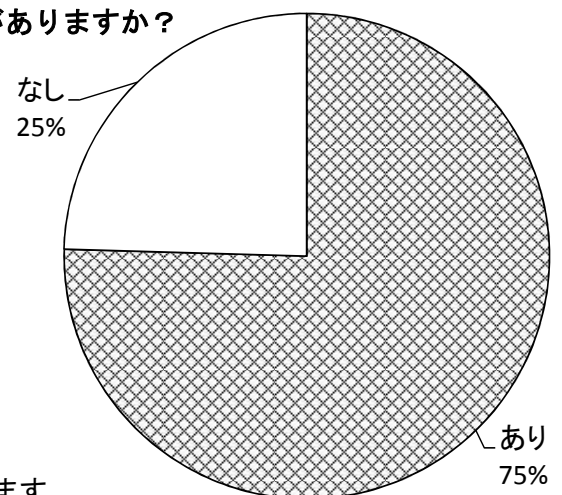


(複数回答可)

N=97

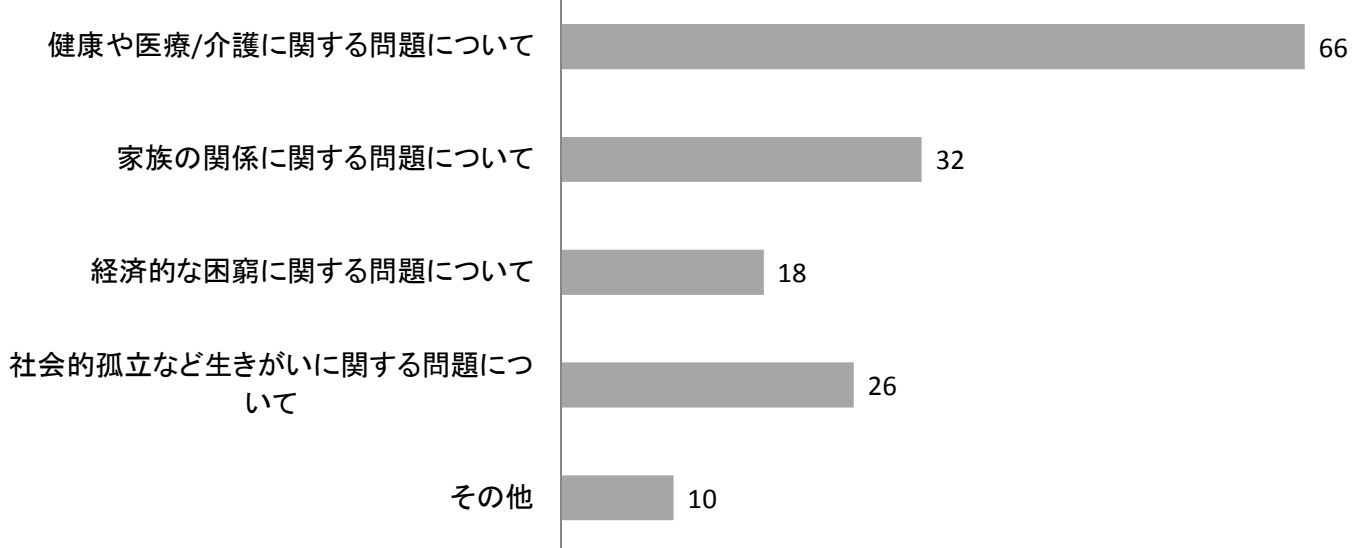
問6. これまで民生委員として独居世帯の相談を受けたことがありますか？

独居世帯の相談を受けたことがある委員は、全体の75%と高い割合となっています。



ありと回答された方へ、その相談内容についてお尋ねします。

相談の内容については、健康や医療/介護に関する問題が66件と最も高く、次いで、家族の関係に関する問題が32件と多くなっています。

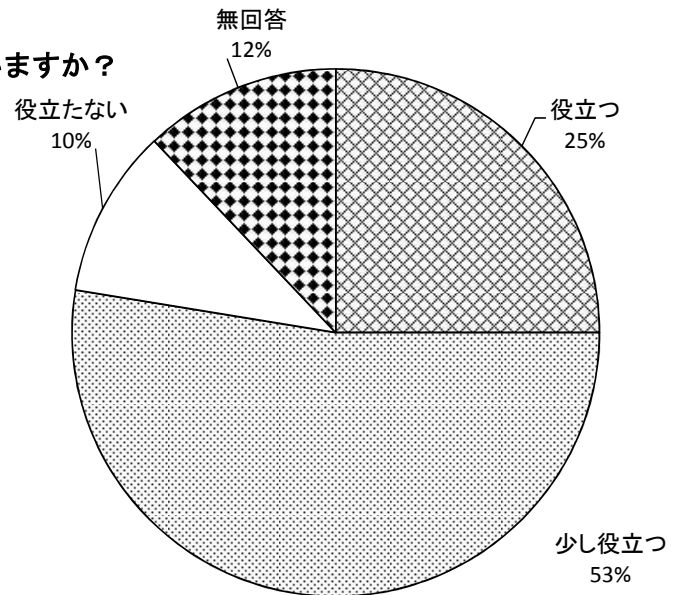


(複数回答可)

N=86

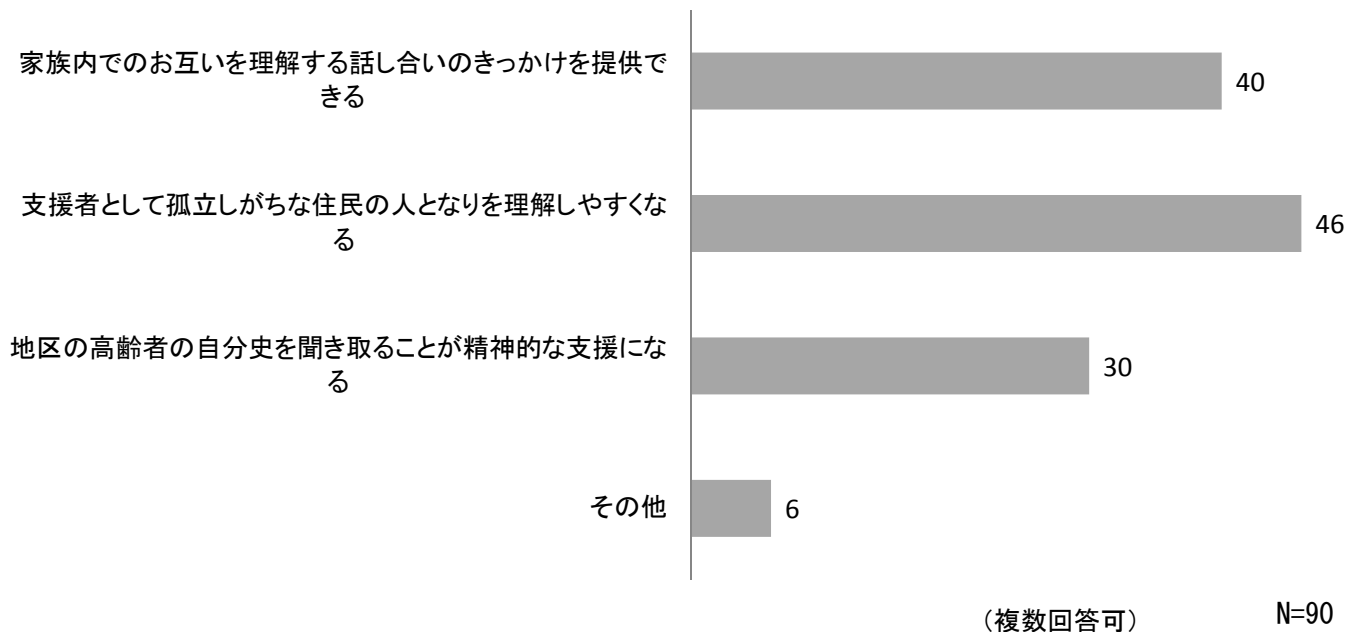
問7. わた史ノートは民生委員の活動に役立つと思いますか？

「わた史ノート」が活動に役立つかどうかについては、全体の78%の方が役立つと回答しています。



役立つ・少し役立つと回答された方へ、その理由をお尋ねします。

役立つと考えた理由としては、孤立しがちな人となりを理解しやすくなるが46人で一番多く、次いで、家族内でのお互いを理解する話し合いのきっかけを提供できるが40人となっています。

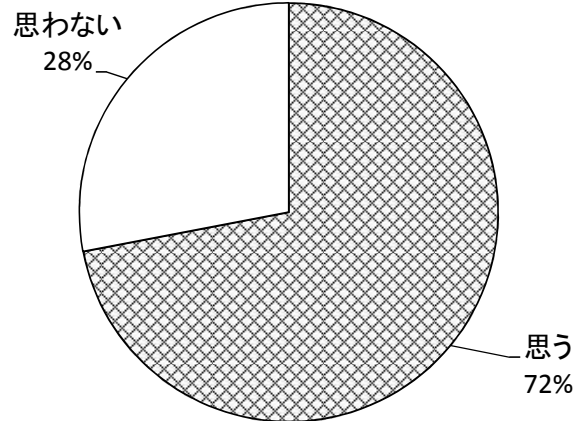


その他の意見

- ・ 独居の方には便利。例えば子供の居場所が不明だから自分が死んだら直火葬して欲しいなど言われます
- ・ 書いたものをどの様に開示するのか？誰が見てもよい様にする？誰かれなく見せる？
- ・ 民生委員自身の人生を書きとめ、人を理解するもとなる

問8. 今後、わた史ノートの普及・啓発を推進する側として協力したいと思いますか？

「わた史ノート」の普及啓発を推進する側として、72%の方が協力したいと回答しています。



○自由意見

- ・普及できればとてもいい事に思います！
- ・記載内容が難し過ぎるので、もう少し簡単な内容にできないか再検討を！
- ・治らない病気になったときの仮定で記入する事は大変難しいと思います
- ・ページ数を少なくしたものもあっていいと思う
- ・自分のことを自分のためにのみ書きたいと思います
- ・読む、書く、話し合うという知的作業が高齢化していく中で困難になっていくという感が日頃の訪問活動で感じています。このノートは高尚すぎます。
- ・現在使用しているが、とても役に立っています。他地区（横浜）の方もとてもよいノートだとほめて頂き参考にしたいと言われました。
- ・人生の歩みを振り返ることができる。家族間の意思の疎通が図れる。
- ・テレビでわた史ノートの取組みが紹介されていた。80代女性が市役所にノートをもらいに行ったと知って、嬉しく思った。
- ・高齢者でなく、20歳ぐらいから渡して一生記入できるノートであればと思う。高齢になってから渡されても、過去を振り返って書くのが難しい。タイトルが分かりにくい。
- ・渡辺先生の話聞いてようやく理解できた（エンディングノートと違う）。もっとこのPRが必要。
- ・もし私が子供達からエンディングノートを手渡されていなければ活用してたかもしれません。（※主人が突然他界し、銀行関係でとても苦労しました。従って独立した子供達は、私の死後事がスムーズに運ぶよう考えたんでしょう。近くの銀行にまとめるとか、カードの暗証番号などです。）
- ・自分の「今、現在の思い」を記録として残しておくという事でいいと思います。自分を大切にしながら、相手の事も大切に出来ると思います。自分の選択に自信が持てるようになるのでは…？今、自分が当たり前だと思って過ごしている毎日がいかに幸せかという事に気がつく。
- ・わた史ノートは子供達の方から書いておいてと言われます。治らない病気になった時には必ず書いて欲しいと言います。子供達に難しい決定をさせる事の無い様、早く記入しておきたいと思います。自分の意思がハッキリしている内にお世話になった方々に感謝の気持ちを伝えておきたいと思います。
- ・未だ自分自身が記入しておらず、内容がすばらしいと思うので、自身が記入して、その感想を含め、徐々にその波動を伝えたく思います。
- ・50年来の友達が現在「がん」を患い、「できるだけ何も残さずに逝きたい」と話します。「遺された者が目に触れて、いつまでも涙を流すから」と。そして「捨てることもできず…」と実体験を話してくれます。会うと、そういう話を聞いている最中ですので、今はまだ「わた史ノート」を利用することは、私個人としてはないと思います。先になれば分かりませんが。
- ・巻頭に「どのような場で」「誰に」「どのような形で」活用するのかをフロー化した絵等で示すと、利用者は理解しやすいか
- ・渡辺先生のお話をお聞きするまでは、「エンディングノート」と同じだと思っており、積極的な取り組みをしておりませんでした。これからは元気な状態の今だから、なぜ必要かも含めて活用するように説明していきたいと思っています。
- ・小さいサイズのも選べると良い（現在の半分か、手帳サイズを）
- ・もう少し簡略化し、写真を貼れる場所があると良いのでは。
- ・高齢者はなかなか記入することが難しい。
- ・官製のものについては余り効果のあるものが少ない様に感じます。